

院長より

筋痛性脳脊髄炎(慢性疲労症候群)、新型コロナウイルス感染後遺症(Long COVID)や、新型コロナワクチン接種後遺症に経口ミノサイクリン療法が有効

強度の全身倦怠感の他、労作後消耗遷延、神経障害性疼痛（線維筋痛症）など多彩な症状により大幅な生活制限を余儀なくされる慢性疲労症候群の病因は筋痛性脳脊髄炎（ME）による中枢神経調節機能障害であることが明らかになった。ME 患者の治療は今なお難渋している。近年、新型コロナウイルス感染後や、同ワクチン接種後に ME に極めて類似した後遺症が多くの人に持続し、社会問題化している。私は2016年より、内服ミノサイクリン治療を行っており、本薬が神経炎症抑制機序から ME、**新型コロナウイルス感染後遺症（Long COVID）、同ワクチン接種後遺症患者、特に罹病期間の比較的短い患者において症状を改善し、好成績を上げている。**（Internal Medicine 2021 doi: 10.2169/internalmedicine.6082-20、eNeurologicalSci 2024 in press）。

ただ、本治療は保険適応外投薬であり、保険治療としては認められず、通常の医療施設では容易にはできない。大学病院などでは倫理委員会の認可など手続き上の煩雑さがあり、現状では不可能である。当院では医師主導の治験として、患者が治験の承諾書にサインすることによって、治験として薬は無料で差し上げている。起立試験も無料で行っている。必要な診察、検査、指導、投薬については、通常の保険診療として行っている。治療を希望される多くの患者の皆さんの来院をお待ちしている。

院長 三羽邦久